



さが

第一一五号

令和 四年

西暦 二〇二二年

秋 彼岸 九月 号

曹洞宗 東運寺

京都市伏見区淀新町六一八一

TEL 〇七五-六三一-二二七二

FAX 六三一-五七二五

E-MAIL sanga@tounji.net

いつの間にかコロナ禍も二年半を超えました。ここにかけての感染増加には、驚かされるばかりです。

今年はお盆前あたりから、ご自身が陽性になったり、濃厚接触者になったりした方から、直接お話しを伺う機会が増えていきます。

どういう症状であったか、どれくらいの期間を療養したか、お医者さんや保健所とのやり取りはどうだったか、他人事ではありませんので、とても興味深く拝聴いたしました。

今も怖い病気であることは間違いなく、亡くなった方や後遺症に悩む方も、たくさんいらっしゃるかと報道されています。

それでも、陽性になった方から直接実体験を伺ったり、新聞やインターネットで闘病記を読んだりしますと、この病気についてさらに知り、不安が少なくなることを実感しました。



いずれはインフルエンザのように、ウイルスと共存する世界、ウィズコロナとなっていくと聞きます。ウィズの相手を知ることが大切です。知らないということは、不安のもとになるからです。

「不安」はたいせつな防衛本能ですが、差別のように、無知から来る弊害も起こりえます。新型コロナウィルスに感染したとき、どんな状況になっていくのかを知られば、お互いに落ち着いた優しい気持ちで相対することができるでしょう。

そういう意味では、現在の、おおっぴらに話せるような状況になってきているのは、よい傾向ですね。

もちろん感染しないのに、越したことはありません。医療現場の負担を減らすためにも、これからも予防に注意して過ごしていこうと、私も思いを新たにしていきます。みなさまもご自愛ください。



永平寺参拝ご報告

大本山永平寺では、昨年の春より、住職の徒弟二名が修行の生活を送っており、今秋に下りてくる予定です。そこで、二名がいるうちにと、東運寺護持会で参拝の旅を企画し、さる九月二日に行ってまいりました。

コロナ第七波の心配の中でしたが、住職、寺族、役員、檀信徒の方々、二十名での参拝でした。ご参加くださったみなさまには、あらためて厚くお礼申し上げます。



永平寺では、精進料理の昼食を頂き、ご参加みなさまのご先祖さまを供養する法要に、参列いたしました。修行の根本である本山の、晩夏を満喫して頂けたことと思います。

なお、今回の参拝は、お寺近辺にお住まいの方だけにご案内いたしました。

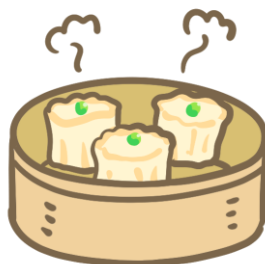
秋の団参

今年は日帰りで明石と神戸へ

三年ぶりの団参は、まず日帰りの企画で再開することになりました。

明石の名刹・月照寺さまに参拝し、中華料理と、港遊覧を満喫いたします。晩秋の神戸を味わいに、ぜひお出でください。お申し込みはお寺まで！

日時	十一月十六日（水）
参拝	明石市 月照寺
昼食	神戸元町「雅苑酒家」
参加費	一〇、〇〇〇円



早い梅雨明けであったせいか、今年は長い夏であった気がします。しかも、猛暑か豪雨かどちらかで、怖い思いをされた方も多かったですと拝察いたします。涼しくなると、かえって体調を崩すとも耳にします。どうかご自愛くださいませ。



↑ ホームページ



↑ お寺の日常